

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
266	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol-related mortality in Ukraine. ウクライナにおけるアルコール関連の死亡率	
<b>執筆者</b>	
Krasovsky K.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Drug Alcohol Rev. 2009 Jul;28(4):396-405.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、ウクライナ、アルコール関連の死亡率	
<b>要旨</b>	
<b>緒言と目的：</b> アルコール関連の危害を減らすことを目的とする公衆衛生方針を立証するために、アルコール関連死は、国家レベル上で立証する必要がある。本研究の目的はウクライナにおける 1985～1988 年の反アルコールキャンペーンのアルコール関連の死亡率の効果を調査することである。	
<b>デザインと方法：</b> 本研究のデザインはウクライナの自然の実験に関して集積されたレベルデータ分析に基づく生態学的な研究デザインとした。1986～88 年の全ての原因と特異的に観察された死亡率レベルを 1980～84 年の推定した傾向と比較した。予防可能であった死亡の割合と数は以下の原因から予測された。1) キャンペーン中の死亡率の減少と 2) 1988 以降の増加である。 1 人辺りの飲酒量が 1 リットルのアルコール関連の死亡率の割合は、予防可能であった死亡と消費減少予想に基づく死亡原因ごとに計算された。特異的な年におけるアルコール関連の死の総数も、計算された。	
<b>結果：</b> ウクライナでは、反アルコールキャンペーンの間に大きく死亡率が減少した。予防可能な死亡の推定で、死亡率を減少させる少なくとも 76%がアルコールに起因していることが分かった。 損傷が原因のアルコール関連疾患は男性でより高く、冠動脈心疾患 (CHD) のアルコールに関連する割合は男女ともに中年層でおよそ 0.5 高かった。	
<b>考察とまとめ：</b> 西欧諸国ではアルコールが CHD に対して保護的作用を示すと考えられている間、ウクライナではアルコール関連の心血管死亡率はむしろ高い結果となった。ウクライナの 2004 年に、アルコール関連の死の総数は、119,000 万人で人口 10 万人に換算すると 251 人である。	